

1

暑  
い

理由

様子

2

4  
消  
息

5  
予  
算

6  
発  
着

1  
①  
ウ  
③  
イ  
⑤  
ア

(1 完 答)

2  
I  
ネ  
コ

II  
あ  
と  
一  
週  
間

3  
イ

4  
I  
あ

II  
た

5  
A  
ニ  
ケ  
が  
病  
気

B  
玄  
太  
の  
せ  
い

6  
ウ

7  
仁  
菜  
ち  
ゃ  
ん  
に  
す  
ぐ

8  
そ  
れ  
か  
ら  
、

3

1  
紫  
外  
線  
が

2  
I  
安  
全  
II  
害  
が  
な  
い

(2 完 答)

3  
③  
工

④  
イ

⑥  
ア

4  
オ  
ゾ  
ン  
ホ  
ー  
ル

5  
I  
塩  
素

II  
紫  
外  
線

III  
オ  
ゾ  
ン  
を

6  
I  
1

II  
2

配 点  
 ① 各2点× 6 = 12点  
 ②・③ 各4点× 22 = 88点  
 <計> 100点

- 1 「あつい」は「暑い」のほかに「熱い」「厚い」という同訓異字があるので、意味のちがいを調べておこう。
- 2 漢字自体はやさしいので一画一画でいねいに書こう。「由」の真ん中のたて棒は上につき出すように書こう。
- 3 「様」の右側のたて棒は十画目で一気に下までつらぬいて書かなければならない。
- 4 「消」の右上の部分を「ツ」のように書いてはいけない。真ん中↓左↓右の順に書こう。
- 5 「予算」とは、「収入や支出の計画」のことである。
- 6 「発着」とは、字の通り「出発と到着」である。ふだん使わないようなことばもこの機会に覚えておこう。

- 2 1 (1) ① は、二行前で父さんに「まだ起きてたのか」と言われていること、(1) ① のあとで何のためらいもなく「うん」と答えていることから、ウがはいるとわかるだろう。(3) ③ と (5) ⑤ はまようかもしれないが、(3) ③ はただ玄太の様子がおかしいことに対する声かけで、(5) ⑤ は「ぼくのせいでニケが病気になるんだ」という「ぼく」の発言を受けての発言である。よって、(3) ③ にはイ、(5) ⑤ にはアがはいる。

- 2 I 線②の付近からは見つからないので、このあとを読み進めていこう。Aの二行後からの父の発言から、病気についてサイトで調べていたことがわかる。Aの三行前からの「〜と書かれたサイト」とあるところに注目したい。
- II 通読する際に、「どれくらい重いのか」と考えつつ読み進めてほしい。病気について書かれているところはいくつかあるが、◎の文にうまくあてはまるところをさがそう。

- 3 「あてはまらないもの」を選ぶことに気をつけよう。——線④の直後の行の「ぼくのせいでニケが病気になるんだ」という発言からも、自分を責めていること、病気のニケに対して申しわけないと思っっていることが読み取れる。また、病気であるニケを見るとさらにそのつらさが増すこともわかるだろう。仁菜に対しては、——線Iの四行後の「仁菜にひどいことを言ってしまった」などから、「申しわけないことをした」と思っっていることがわかる。仁菜のことを思い出したくないわけではない。
- 4 I 「あんな」とは、話し手も聞き手ともに知っっている人や物事の状態があつたようであるさまをあらわす。ここでは、——線Iの四行後から仁菜に「ひどいこと」を言ったとわかる。このように、マイナスの状態もしくはプラスの状態に対して「あんな〜」という言い方を使うことがある。

- II 「ためらう」とは、「しよつかするのをやめようかまよう様子」である。
- 5 父の言いたいことのひとつめをまとめた一文である。Bは「こよりもあとから、本文の後ろから四行前の「ふたつめは〜」の前までですが。父の言いたいことが特にまとめられているのが、この五行後の「特に〜」部分である。かんたんに言う「ニケの病気を自分のせいだと思っする必要はない」ということだが、Aは「こよりも前の部分から」という指定を守ってさがそう。Bは、「ぼくのせい」を入れてしまうと「父さんのせい」のようになってしまふので、さげよう。

- 6 Cの四行後に「そんな父さんの言葉が、今日はどうれしい」とある。「自分のせいだ」と自身を責めていた玄太にとって、「玄太のせいじゃない」という父のことがばがプラスになったのである。「はなばなし」だと、はなやかなイメージになってしまう。
- 7 線⑥の二行前の父の発言に対して「うん……」と答えていることから、この父の発言からさがせばよいとわかる。
- 8 線Iの前の行で「涙」を落としていっること、——線Iの八行後で「しゃくりあげながらたどどしく話」していっることから、このあいだのどこかで号泣したことがわかる。その号泣したきっかけは何だったのか、と考えよう。

- 3 1 「紫外線」のマイナス面については四段落目に書かれている。問いの「人間にとつては」という指定を読み落とさないように気をつけよう。

- 2 いろいろなところで使われていたのはもちろん、フロンにはプラスの面があるからである。——線②の二文後の一文に「フロンは燃えないため安全で人体にも害がないので」と書かれている。
- 3 (3) ③ の前にはフロンのプラス面が、あとにはフロンのマイナス面が書かれているので、(3) ③ には「ところが」がはいる。(4) ④ の前の「紫外線は、動物や植物もきずつけます」と、あとの「オゾン層の破壊を食い止めよう」といっことになり「原因と結果の関係になっっているので、(4) ④ には「そこで」がはいる。(6) ⑥ の前の内容を受けてあとの内容が引き続き起こっっているので、(6) ⑥ には「そして」がはいる。

- 4 をふくむ段落から、には「南極上空にできるオゾンの少ないところ」をあらわすことばがはいるので、根気よくさがしていこう。本文の最後の段落に「フロンは増えなくなり、今は減り始めていますが、南極上空にはまだ毎年オゾンホールができていっます」とある。
- 5 文章を讀んでいっる時に「どうして〜でしょうか」のような問いかけがあつたら線を引き、それに対する答えをさがしながら読むことが大切である。——線⑤の次の段落の最後の一文に「こうしてオゾンはこわれてしまふのです」とあるので、この段落からさがしたらよいとわかるだろう。◎の文の「フロンをつくつていっる」「はじき出され」「くつつく」といっことはも参考にしなからさがそう。

- 6 I 本文七段落目の「フロンの働きに気づいた世界の人々は何度も話し合っ」といっ表現や「モントリオール議定書」といっことばから、世界の人々が問題意識を持っ取り組んでいっることが読み取れる。
- II 本文最後の一文の「オゾン層が一九七〇年以前の状態にもどるのは」といっ表現から、オゾン層は、時間はかかるものもとにもどることが読み取れる。